

群馬県衛生環境研究所・食品安全検査センター 令和5年度 業績発表会プログラム

開会 13:30

開会のあいさつ

衛生環境研究所長 猿木 信裕

<衛生環境研究所（環境）> 13:35～14:20

座長：衛生環境研究所 副所長 田子博

1. 流入から見た多々良沼の水質汚濁要因の一考察

水環境係 太田正徳

館林市と邑楽町に跨る多々良沼は、地元に限らず多くの人が憩いの場として訪れている。しかし、その水質は決してきれいとは言えず、当所も水質改善に協力をしている。今回は、流入河川の水質調査結果から汚濁原因の可能性を、河川流域の汚水処理の観点から考察したので報告する。

2. パッシブサンプリング法を用いた浅間山周辺における二酸化硫黄濃度の測定結果

大気環境係 小池有理子

2023年3月に浅間山の火山活動が活発化し、SO₂放出量が増大した。SO₂は大気汚染の常時監視項目の一つであり、モニタリングが求められる。浅間山周辺地域のSO₂の濃度分布を把握するため、パッシブサンプリング法を用いた測定を行ったので報告する。

3. 2022年夏季における群馬県内の暑さ指数と熱中症救急搬送者数の状況

気候変動適応センター（大気環境係） 熊谷貴美代

群馬県では夏季は高温多湿になりやすいが、2022年夏季は6月下旬にもかかわらず県内で最高気温が40℃を超えるなど記録的な暑さとなった。そこで、県内における暑さ指数（WBGT）と熱中症救急搬送者数の関係について解析したので報告する。

<衛生環境研究所（感染症・共同研究）> 14:20～15:05

座長：衛生環境研究所 主席研究員（感染制御係長） 吉住正和

4. 令和5年度感染症流行予測調査の結果について

感染制御係 兵藤杏花

感染症流行予測調査は、病原体の検索及び集団免疫の現状把握を目的として国が主体となり行っている事業である。群馬県では今年度、ブタ及びヒトから採取した検体を用いて、日本脳炎、インフルエンザ、麻疹、風疹についての調査を行ったので、その結果について報告する。

5. 群馬県で検出されたノロウイルスの遺伝子型について

保健科学係 中澤祐貴

ノロウイルスを原因とする感染性胃腸炎は、毎年さまざまな遺伝子型が流行に関与していると言われている。群馬県では、ノロウイルスの遺伝子型の流行状況を把握するための遺伝子解析を行っている。本発表では2020年10月から2023年12月までに検出されたノロウイルスの遺伝子型について報告する。

6. 温浴施設における衛生管理方法に関する検討

株式会社ヤマト 住谷敬太

温浴施設のろ過器に低濃度電解オゾン水を毎日1回供給することで、逆洗排水中のアメーバの増加が確認された。今回、電解オゾン水による洗浄メカニズムの解明を目的として、アメーバに対するオゾン暴露の基礎実験や、模擬逆洗水による剥離試験を実施したので、その結果について報告する。

<食品安全検査センター> 15:05～15:35

座長：食品安全検査センター 主席研究員（残留農薬検査係長） 庄司正

7. 健康危機管理のための植物性自然毒分析法の検討とスイセン様植物の分析

食品・医薬品検査係 大島裕之

平成31年群馬県内で発生したイヌサフランの誤食による死亡事例を契機に、当センターでは植物性自然毒の有毒成分の分析法の検討を行ってきた。この検討結果に加え、今年度前橋市内において発生したスイセン様植物による食中毒事案での依頼分析の結果も報告する。

8. 群馬県に流通する加工食品に含まれるアレルギー「くるみ」の実態調査

食品微生物検査係 永井裕美

「くるみ」によるアレルギー症例数の増加等を踏まえ、令和5年3月に食品表示基準が一部改正され、「くるみ」は義務表示である「特定原材料」に追加された。そこで、県内に流通する加工食品を購入し、加工食品中のアレルギー「くるみ」の定量及び定性検査を行ったので報告する。

閉会のあいさつ

食品安全検査センター所長 牧岡正善

閉会 15:40（予定）